

シティプロモーションなど

創生会議委員意見は丸ゴシック体で表記

基本的方向性	課題	市民委員会・創生会議委員の意見			具体的な施策
		個人の取組	地域・民間の取組	行政の取組	
シティプロモーション	富津市の魅力をアピールできていない、富津市が知られていない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>SNSで情報発信する(観光・グルメ・景観)。</li> <li>友人・知人へ情報発信する。</li> <li>市外の人へ話をして伝統的なお祭りなどに参加してもらう。</li> <li>海山や美しい富士山が見えることを都会の人に伝える。</li> <li>釣り客と交流を深め、富津市をPRする。</li> <li>陶芸家、画家などの紹介をする。</li> <li>知り合いなどに富津市の良い所を宣伝する。</li> <li>友人に観光名所を案内する。</li> <li>富津の良さを自ら発見してPRしていく(出会いも含めたPR)。</li> <li>地域の現状を知る。</li> <li>TVで富津市が放送されたりしたら意識して観る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内のコンビニを情報発信の拠点にする。</li> <li>陶芸家、画家などの紹介をする。</li> <li>知り合いなどに富津市の良い所を宣伝する。</li> <li>地元商店や企業の「営業告知力」を強化する。</li> <li>「マザー牧場」、「鮎山」を「富津市」とリンクさせる。各事業者も「富津」を前面に出すようにする。</li> <li>地域としてPRする(鴨川では、人が人を呼んで海外からの移住者も増えている)。</li> <li>歴史を見直す(古墳や海堡など)。</li> <li>地域をあげて知名度UPに協力する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポスターやアンテナショップでPRする。</li> <li>ホームページを見直す。</li> <li>全国的に地域行事を発信する。</li> <li>市外から富津市役所に就職した職員が富津市の名所、魅力を体験談として発信(SNSを利用して)。市職員の活躍の場を設ける。</li> <li>インターネットなどで富津市の情報をどんどん発信する。</li> <li>観光バス(誘致)など、民間へ情報提供する。</li> <li>ご当地ナンバーを作る。</li> <li>集客能力をもつ観光施設・飲食店をPRする(過度に公平性を考慮しない)。</li> <li>取材協力などは積極的に対応する(メディアの作り出すイメージは影響大)。</li> <li>富津市は知名度が極めて低いので、人が集まるような場所を作りPRする。</li> <li>学校で教える(横浜市では横浜市史を小学校の授業に盛り込んでおり、地域愛に繋がっていた)。</li> <li>ロケ地やPVなどに土地が多いのに行政は何も動かないのでもう少し関心を持つ。</li> <li>富津市の自然豊かな海山は市の財産なので、これを将来守っていくために積極的にPRする。</li> <li>既設の行業地を整備して家族が一日楽しく遊べるようにする。</li> <li>全国に富津市の良い所をPRすると共に宣伝のグラビアを作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民が能動的に情報発信できる仕組みづくり</li> <li>地域のグルメなどを全国・世界に向けてオール富津で外部にPR</li> </ul>
	移住希望者(予備軍)への相談体制やPRが不足。		<ul style="list-style-type: none"> <li>地元の人や移住した人がやっている活動をPRして興味のある人が参加できるツアーを行う。</li> <li>不動産等のPRをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>富津市の良い所が分かるカレンダーを作る。</li> <li>多くの人が集まる場所にパンフレットなどPRできるものを置く。</li> <li>親身になって相談のにつくれる担当者置く。</li> <li>ふるさと納税などを契機に富津ファンを育て、移住者となるように仕掛けて行く。</li> </ul>	
	富津市の特徴が活かされていない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれ土地の特色を活かした生活をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>農地を都会の人に開放して農業従事の推進策として考える。</li> <li>地域ごとにコミュニティを作る(コミュニティに入りやすいようにする)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前例に縛られないようにする。</li> <li>市街地と田舎の2極化をプロモートする。</li> <li>田舎のそのものを武器にする。</li> </ul>	
行政	より利用しやすい市役所、相談しやすい窓口にしていく必要がある。職員の意識改革も必要。	<ul style="list-style-type: none"> <li>行政について知らない人がいたら自分の知っている範囲で教える。</li> <li>市内で問題のある事案が改善された場合、効率を上げるため市に報告する。</li> <li>回覧板などを良く理解すると共に市議会に傍聴参加して市政運営に協力する。</li> <li>自分の私利私欲で議員を選ばない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市役所と地域が連携し情報発信する。</li> <li>行政機関の業務に関心を持つ。</li> <li>行政に協力する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市役所の業務を今まで以上にアピールする。</li> <li>他県では「すぐやる課」があるように、市でも「すぐやる課」を作る。</li> <li>窓口を一つにして、そこですべて対応する。</li> <li>行政の風習や習慣を変えることから始める。</li> <li>市長をはじめ行政がリーダーシップをとる。</li> </ul>	
	財政状況が悪い。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の健康管理に気をつけて、税金のお世話にならないようにする。</li> <li>学校に寄付できるようベルマークを集める。</li> <li>要望書などの署名の依頼があったらその内容が本当に必要かを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>働ける人はしっかり働いて税金を納める。</li> <li>学校に寄付できるようベルマークを集める。</li> <li>当然の事だが要望書の署名の強要はしない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ベルマークをまとめて学校の財源の一部にする。</li> <li>市議会議員の報酬を半分にする。</li> <li>コストダウンを意識する。</li> <li>大規模な公共事業の計画時は市民に意見を聞く。</li> <li>企業を呼び込み法人税収が見込めるようにする。</li> </ul>	
	施設の活用・設置が不十分(図書館、墓地、自由に使える拠点施設)。市役所、防災センターが立派すぎる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動する場を探し把握する。</li> <li>墓地建設で行政からの要請があればボランティアで協力する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設を拠点にして活動を共有する。</li> <li>墓地建設で行政からの要請があればボランティアで協力する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>立派な市役所建屋がちゃんと使われていない気がするので空きスペースを図書館(図書室)にする。</li> <li>市役所横のレストランをBookCafeにする。</li> <li>スペースがあるので市役所をもっと市民に開放する(市民グループなど)。</li> <li>公共施設の利用状況を発信する。</li> <li>墓地建設を計画する。</li> <li>市役所の空きスペースにキッズスペースの設置や市民グループの貸出しなど市民に開放する。</li> </ul>	
	暮らしやすい環境づくりの工夫の余地がある。			<ul style="list-style-type: none"> <li>税金などを近隣より少しでも安くするなどの策を講じる。</li> </ul>	
	転出者が多い(特に近隣市)。	<ul style="list-style-type: none"> <li>他の市を勉強する。</li> <li>結婚を機に転出する現状を考える。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>独身者であっても税制面や生活面において優遇する。</li> <li>財政不安をなくす。</li> </ul>	

基本的方向性	課題	市民委員会・創生会議委員の意見			具体的な施策
		個人の取組	地域・民間の取組	行政の取組	
人口	人口が減少していく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できる限り自分は地域に留まる。</li> <li>・自分のできる事を日頃から意識する。</li> <li>・多くの人を富津市へ呼ぶようにする。</li> <li>・常に問題意識を持つ市民でいる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報などで各戸(個人)のルーツ探しを啓蒙する。</li> <li>・人口減少又は増加に対して財政面をしっかりと考え公表する。</li> <li>・30,000人の予測を35,000人にするを目標にするより、減少する人口の中でより住みやすい環境にする。</li> <li>・市のHPなどで多くの人に情報を伝える(広報の充実を図る)。</li> <li>・市民に対してよく説明する。</li> <li>・人口減少に対しての具体的な施策を明確にする。</li> <li>・ポスターなどを用いて告知をする。</li> <li>・富津市のアピールできるものを強化する。</li> <li>・人口が減っても行政運営をできるベースを作る。</li> <li>・政府機能の一部を富津市に移す活動をする。</li> <li>・将来人口の目標設定をもっと具体的に市民が理解しやすいビジョンにする。</li> </ul>	
	高齢化が進展している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若年層を増やすもしくは出生率を高める環境を作る。</li> <li>・行政や自治会の情報を収集する。</li> <li>・とにかく健康になり、病院に行かないようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各世代のコミュニティができるような活動や見守りができる環境を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公園などの利用を無料ではなく、ベルマークや不要になった本、ハガキ、切手などを代金代わりに持参する(リサイクルで活用できるもの)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者が歩くだけでなく、公園で運動できる器具を設置する。</li> </ul>

## 1 自分のくらす地域を好きになる

創生会議委員意見は丸ゴシック体で表記

基本的方向性	課題	市民委員会・創生会議委員の意見			具体的な施策
		個人の取組	地域・民間の取組	行政の取組	
①転入者受け入れの環境整備	外国人を含めた転入者の受け入れが不十分。	<ul style="list-style-type: none"> <li>転入者となるべく溶け込めるように接する。</li> <li>外国人の研修生・実習生の日本生活の支援(日本語教室)をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニティの役割を強くする。町内会の区域割を明確にして移住者の不安感を減らす。</li> <li>馴染んでいない転入者に情報を伝える。</li> <li>地域として研修生・実習生の実態を把握する。</li> <li>子どもや富津市に興味のある人、移住を考えている方などに体験や研修ができるよう協力する。4</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国人移住について積極的に考える。</li> </ul>	
	若い人達が住みやすい環境になっていない。(第2に再掲)	<ul style="list-style-type: none"> <li>富津市の良い所を機会があるごとに話す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>若い人達が住みよい街作りをする(住宅団地造成、住宅建設)。</li> <li>地区の代表者を中心にして新しく入ってきた人達を歓迎する。</li> <li>移住場所の確保や家族、地域との繋がりを持つ。2</li> <li>地域の中で良いところを相互に共有する。2</li> <li>地域で住んでもらう場所を決めて定住者を迎え入れる。2</li> <li>子育てしやすいコミュニティ作る。3</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育などの負担を減らす。</li> <li>住宅ローン者には、その他の負担軽減策を考える。</li> </ul>	
	若い世代が少ない。転出している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>富津市を宣伝する。</li> <li>富津市の良いところを伝える。</li> <li>市に足りない部分を提案する</li> <li>自然の中での生活をアピールする。</li> <li>仲間内同士で声をかける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の若い人の集まりで繋がりを作る(消防団、青年団、商工会、祭りなど)。</li> <li>見守りに協力して、安全性を確保する。</li> <li>地域の環境を改善し若者が住んで楽しい生活環境にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>転出した理由を把握する。</li> </ul>	
	地域の転入者受け入れ体制が不十分。	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域に根付いた活動に参加する。</li> <li>必ず声掛けをする。</li> <li>転入者に対して区の説明をする。</li> <li>毎日挨拶をして会話をする。</li> <li>集いの場で地域の知らない部分をPRする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>区全体で協力する。</li> <li>転入者に対して話をする。</li> <li>地域としてできる事を話し合う場を作る。2</li> <li>転入者に対して地域で協力する。2</li> <li>地域の集いの場(祭りなど)を新たな視点で見直す。</li> <li>自治会のあり方(入りやすい状況)について話す機会をもつ。</li> <li>同趣味を共有できる地域を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市も転入者に対して地域の説明をする。</li> <li>転入者に自治会の紹介をする。(1-(2))</li> <li>地域特性を活かした取組みを推進する。</li> <li>転入者に対し地域の特徴を説明し区長を紹介する。</li> <li>同じ趣味を共有する仲間を集めて活動していることをPRする。</li> </ul>	
	新旧住民間、農業地域と市街地間のコミュニケーション、交流が不足している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>近所に住んでいる新住民とのあいさつ、雑談などができる限り多くする。</li> <li>移住してきた人達に話しかけるなど仲良くする。</li> <li>家庭内の会話から始める。</li> <li>減少しても、まわりの顔がよく見えるので挨拶するなど近隣の人達との関係を密にする。2</li> <li>地域の人達とのコミュニケーションを図り、繋がりをサポートする。2</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市街地と農村部を好む人々で地域を分ける。</li> <li>イベントを企画して地域の人々を招待して交流を持つ。</li> <li>同趣味を共有できる地域を作る。</li> <li>積極的に挨拶をして信頼関係を築く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>季節によって楽しめる行事を計画して、市民に知らせる。</li> <li>治安の悪化をさせない努力。</li> </ul>	
					<ul style="list-style-type: none"> <li>施設名の見直し(核となる施設が連想しにくい)(創生会議)</li> </ul>
②地域行事やイベントを通じた地域の活性化	各種経済団体(富津市商工会、富津市観光協会など)の活動が活発でない。(第4に再掲)	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種団体が行事を実施する時は参加し協力する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種団体が行事を実施する時は参加し協力する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>富津市の発展の為に各種団体に協力する。</li> <li>富津観光協会へは活動方針などを指導する。</li> </ul>	
	個人、地域、行政の間で情報共有ができていない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の持っている情報を活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>良い情報を地域に還元させる。</li> <li>地域行事の発信をする。2</li> <li>地区の良い所をその地域でPRする。2</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民の優れた知識や能力を取り入れ活用する。</li> </ul>	

基本的方向性	課題	市民委員会・創生会議委員の意見			具体的な施策
		個人の取組	地域・民間の取組	行政の取組	
②地域行事やイベントを通じた地域の活性化	行事や団体の活動など、市の情報を得る機会が少ない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>市のHPを見てみる。</li> <li>広報紙をよく読む。</li> <li>ネットで確認する。</li> <li>自治会に入る。</li> <li>自分が知りえた情報は家族には必ず伝える。</li> <li>知りえた情報を周りに話す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティア、協賛などで行事に参加。</li> <li>地域住民の行事開催時に情報交換する。</li> <li>イベントなど地域住民で協力していく。2</li> <li>地域の行事に参加する人を増やす努力をする。2</li> <li>隣近所の人々を巻き込み、遊び感覚で子どもと付き合うようにする。3</li> <li>各種団体間の連携をとる。</li> <li>広報の充実に協力する。</li> <li>行政に協力する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>告知の方法を改善する(時期・場所・回数など)。</li> <li>イベントスケジュールの作成をする。</li> <li>宣伝や企業の人材募集など情報提供する。</li> <li>人が集まる場所を作り情報を掲載する。</li> <li>図書館などで広報をする。</li> <li>市民一人一人に伝える方法を考える。</li> <li>学校と地域の人と一緒に参加できる行事などの計画をする。分類外</li> <li>広報の充実に図る。</li> <li>広報紙を見やすくする(子どもの絵を載せる)。</li> </ul>	
③地域活動への参加 ④自治会活動への参加意欲の醸成	自治会の活動内容がわかりにくい、参加意識が低い。	<ul style="list-style-type: none"> <li>まずは自らが積極的に参加してみる。</li> <li>会社にいる地元の人に話を聞く。</li> <li>ネットで情報を得る</li> <li>市役所に出向き情報を集める。</li> <li>近所の人に聞きに行く。</li> <li>自治会に加入するメリットを理解する。(1-1)</li> <li>自治会に加入していない人に働きかける。(1-5)</li> <li>自治会に参加できるところは参加する。</li> <li>自分が役員じゃなくてもお祭りの手伝いや公園の掃除に参加する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の活動としてアピールする。</li> <li>参加意欲を増加させる努力をする。</li> <li>入ってきた人を巻き込む環境作りをする。</li> <li>孤立した環境でも住みやすい地域作りをする。</li> <li>新聞、広報紙以外にも広告を入れる。</li> <li>もっと気楽に町内会の行事に参加できるようにする。</li> <li>自治会の運営要領を作成しオープンしていく</li> <li>自治会の役割やメリットがわかるようなマニュアルを作る。(1-1)</li> <li>富津市の自治会の役割を全員に知らせる(紙以外の伝達方法)。2</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>入会のメリットを転入時にPRする。</li> <li>町内会の情報を把握する。</li> <li>掲示板を人目に付きやすい場所に出す(コンビニに広報紙を置く)。</li> <li>自治会活動に方向付けをする。</li> <li>各地域の情報収集に努め地域間交流と全市民の現状分析をする。2</li> <li>これだけはやってほしいといった内容を決めて区長研修を行う。</li> <li>区長さん同士の情報交換できる場を作る。</li> </ul>	
	自治会活動が希薄。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自主的に地区行事に参加する。</li> <li>自治会の活動を知る。</li> <li>地域の公園のごみ拾い、草取り、生垣の手入れなどを実施する。</li> <li>地域住民に公園をきれいにしよう働きかける。</li> <li>近隣住民との関わりをもつ。</li> <li>自治会役員の方の話を聞いてみて少しでも参加してみる。</li> <li>自分で出来る事をする(無理はしない)。</li> <li>自治会について理解してもらえぬまで説明する。</li> <li>回覧板をよく見る。</li> <li>竹岡地区の楽しい事が続けられるように努力していきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3か月に一度くらい区長との会合をもつ。</li> <li>老人ホームの方々や保育園児、小学生などみんなが楽しめる環境を作る。</li> <li>自治会の行事などを大きく宣伝する。</li> <li>自治会の良さ伝えて協力してくれる人を増やす。</li> <li>自治会同士の横のつながりを展開してコミュニティを広げる。</li> <li>地域内公園のごみ拾い、草取り、生垣の手入れなどを当番制で実施する。</li> <li>区費でベンチなどを寄付する。</li> <li>地域に引きこもっている住民と関わりをもつ。</li> <li>周囲も巻き込んで活動に参加する。(1-1)</li> <li>若者の活躍の場を設ける。2</li> <li>コミュニティの役割を強くなる。2</li> <li>市議や区長など地域の現状を知っている人達に協力してもらう。3</li> <li>リーダー、担い手を育成する。</li> <li>自治会に参加しやすいように「ライト会員制度」を作る。</li> <li>自治会に入っていない人も参加できるような行事を作る。</li> <li>目標掲げて指導者を立てる。</li> <li>小規模でも子どもから老人まで一緒に運動会をできるようにする(昔はやっていた)。</li> <li>区長が各役員の意見を取りまとめ決定した年間行事を回覧し各家庭に周知する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>区長が自治会を進めやすいよう協力する。</li> <li>自治会の活動や仕事を整理する。</li> <li>自治会によって活動がまちまちなので、ある程度の指針を作る。</li> <li>富津市内にある公園の管理方法を見直し、外注管理を削減し、地域で管理できるようにする(経費削減・公園を大事に使用する)。</li> <li>地域と住民を繋ぐ窓口になる。</li> <li>活動、イベントなどの紹介しアピールする。(1-1)</li> <li>市役所OB、現職の地域での活動を促す。2</li> <li>コミュニティのあり方を見直しする。</li> <li>区割りの見直しをする(世帯数や年齢を考慮する)。特に青木地区は大き過ぎる。</li> <li>他市、他県のコミュニティの活動を紹介する(見習えることを見習っていく)。</li> <li>自由参加の行事を宣伝する(ネットや広報紙などを活用する)。</li> <li>地区の良い活動を市がPRする。</li> <li>補助金(補助的役割)が必要。</li> <li>山川海の保護活動、地元美化に興味を持たせる。</li> </ul>	
④地域への愛着・誇りが育つ ①地域への愛着・誇りの醸成	人口ビジョンをより進化させる必要がある。 地域への愛着がない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域への愛着を持つ。(1-1)</li> <li>実家を大切にしていって子ども達に役割を理解してもらおう。2</li> <li>都会の生活を標準とせず地域に根を張って生活し、地域の為に誇りを持つことによって生きがいを感じるような雰囲気作りをする。2</li> <li>地域への愛着を持つ。2</li> <li>自分が育った土地を大事にする。2</li> <li>富津市を好きになる。2</li> <li>地域への愛着を持つ。3</li> <li>実家、両親を大切に作る家庭を作る。</li> <li>富津市のビジョンに対し個人が意識する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニティの結束力を活かして人口が減っても協力し合えるようにする。</li> <li>富津の魅力を知ってもらう。</li> <li>地域として魅力を作る。2)</li> <li>企業の街づくりに対する意識を高める。</li> <li>地域でできる事を考え活動する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然の強みを具体的に考えていく。</li> <li>学校で地元産業を学び・体験する時間を増やし、将来の職業先の一つとして考えられるようにする。4</li> </ul>	

基本的方向性	課題	市民委員会・創生会議委員の意見			具体的な施策
		個人の取組	地域・民間の取組	行政の取組	
					・ 体験型観光一市内交流も兼ねる（創生会議）
⑤高齢者が地域で元気に暮らす	高齢者が交流、活動する場が少ない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者の得意を活かせるものを探す協力をする。</li> <li>・ 周囲の住民とコミュニケーションをとる。</li> <li>・ 近所の人や高齢者に昔の事や遊びを積極的に聞く。</li> <li>・ <b>元気な方は出来る仕事をする。</b></li> <li>・ <b>既に高齢者エリアになっている区の行事も参加できる所は参加する。</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもとふれあう場を作る。</li> <li>・ 地域行事に講師として招くなど、高齢者の得意分野を活かせる仕組みを作る。</li> <li>・ 農作業や祭り事（しめ縄づくり）などを教える場を作る。</li> <li>・ 集会所が利用できるよう検討する。</li> <li>・ 昔から続いている行事を絶やさない。</li> <li>・ 集まる機会を増やす。</li> <li>・ 集まることのできる場所の整備をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アンケートを実施し、公民館などに高齢者が参加できる教室を設ける。</li> <li>・ 老人会の減少理由を調べ活動補助をする。</li> <li>・ 場所の提供や無料バスの手配などをする。</li> <li>・ 高齢者の活動の促進や紹介をする。</li> <li>・ 集会の情報を広報に掲載する。</li> <li>・ 年齢に応じて高齢者が活躍できるシステムを提供する。</li> <li>・ <b>高齢者の仕事などを照会する。</b></li> <li>・ <b>一地区、一行事を開催するよう促す。</b></li> <li>・ <b>広報紙だけでなく高齢者目録で情報を提供する。</b></li> </ul>	
	地域ぐるみでの高齢者の見守り、生活支援が不十分。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 挨拶、声掛けをする。</li> <li>・ 高齢者世帯への声掛けをする。分類外</li> <li>・ 介護など自分のできることを考え行動する。</li> <li>・ 近所付き合いを大切にす。</li> <li>・ 近所に関心を持ちどのような人がいるか把握する。</li> <li>・ 挨拶や地域のイベントに参加する。</li> <li>・ 地域にいる高齢者の状況を知る努力をする。</li> <li>・ 周りに一人暮らしの人が居ないか知る。</li> <li>・ 身のまわりの事を手伝う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 向こう三軒両隣との関係を良好にする。</li> <li>・ 地域でサポートできるような仕組みを確立する。</li> <li>・ 地域で声掛けをする。</li> <li>・ 人と人が接する機会を作る。</li> <li>・ 地域で見守りをする。</li> <li>・ 一人暮らしの高齢者などに対し宅配サービスなどの利用を勧め配達員が生存確認する。</li> <li>・ 一人暮らしの高齢者などを区や民生委員の人で見回る。気に掛ける。</li> <li>・ 高齢者にデイサービスなどの利用を促す。</li> <li>・ 行ってみたいと思わせる場所を地域で作る。</li> <li>・ 高齢者を町内会の役員にしないなどの配慮をして町内会加入を促す。</li> <li>・ 老人クラブの活動の活性化をする。</li> <li>・ お年寄りの集まる場所を提供する。</li> <li>・ 地域で働ける場所を作る。</li> <li>・ 60代、70代前半の人を活用して少し賃金を支払って活躍してもらおう。2</li> <li>・ 高齢者が若者に対し人生経験などを話して伝える。2</li> <li>・ 子育てと仕事の両立できるような周囲がサポートする（地域の高齢者の力を活用）。3</li> <li>・ 高齢者でも手持ち仕事をできる人が多いので地域で活躍してもらおう（小さな畑や貝むき）。4</li> <li>・ 高齢者も地域で通える範囲で仕事をする。4</li> <li>・ 地元のお店で移動販売や宅配を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一人で行かせることのできない高齢者への支援。</li> <li>・ 地域の声掛け運動などをサポートしていく。</li> <li>・ 目を決めて生存確認できるようにする。</li> <li>・ 緊急通報システム（ボタンを押すなどでの安否確認）などを整備。</li> <li>・ 地域差を少なくする。</li> <li>・ 一人暮らしの高齢者などに対し宅配サービスを斡旋する。</li> <li>・ 一人暮らしの人の実態を把握する。</li> <li>・ 防災支援の登録の推進をする。</li> <li>・ 高齢者の活動しているサークルを紹介する。</li> <li>・ 高齢者向けの散歩コースを作る。</li> <li>・ 町内会に入るメリットとして、見守りがあることを伝えていく。</li> <li>・ 地区の社会福祉協議会と協力する。</li> <li>・ 自治会役員やボランティアと高齢者の情報を共有する。</li> <li>・ 孤立した人がいないか住民から情報提供してもらって自治会などに情報を流す。</li> <li>・ <b>現在実施しているシステムを更に改善し老後の安全、安心に寄与する。</b></li> </ul>	
⑥地域ぐるみの防災・防犯体制の促進(新規)	地域ぐるみの防犯対策が不十分。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在、大堀二地区内で実施している、防犯訓練及び防犯パトロール、交通安全指導を今後も継続すると共に拡大するよう努力する。</li> <li>・ <b>防犯パトロール及び交通安全に参加し子ども達を大人が守る。</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域ぐるみで連携し防犯意識を高めあう。</li> <li>・ 大堀二区の活動を全区での実施を検討。</li> <li>・ 地域に呼び掛けて目を向けてもらう。3</li> <li>・ 地域で見守りをする。3</li> <li>・ <b>区単位で防犯パトロール隊を編成し活動をして抑止力を高める。</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 富津警察署の生活安全課が推進指導するように行政が働きかける。</li> </ul>	
	避難場所、備蓄倉庫の場所がわからないなど地域の防災体制が不十分。(第2に再掲)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 積極的に訓練などに参加する。</li> <li>・ ハザードマップをチェックする。</li> <li>・ 近所の人と顔見知りになる。</li> <li>・ 自分で下見をして避難できそうな場所を考える。</li> <li>・ できる限り備蓄や防災用品を備える。</li> <li>・ 家族間での安否確認の仕方や共通の避難場所の確認をする。</li> <li>・ 防災倉庫の場所をチェックしておく。</li> <li>・ 自助に努める。</li> <li>・ 自然を大切に育てる意識を持ち、伐採などの影響で災害が起こらないように土地を守るための活動に参加する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 防災訓練などの年間の計画を作る。</li> <li>・ 地域で避難訓練をする。</li> <li>・ 普段からみんなで声掛けをする。</li> <li>・ 地域で避難場所を確認する。</li> <li>・ 必ずしも市で決められた場所が安全とは限らない事を認識する。</li> <li>・ 避難訓練の時に防災倉庫の情報を共有する。</li> <li>・ 倉庫の中身を確認する。</li> <li>・ 互助に努める。</li> <li>・ これ以上、山がなくならないよう災害の少ない土地を守るための活動をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 消防署も区の指導をする。</li> <li>・ 自主防災組織の加入率100%を推進し、自主防災活動及び防災知識の普及を区長単位で推進する。</li> <li>・ 防災情報を提供する。</li> <li>・ 防災の日だけではなく、年数回呼びかけをする。</li> <li>・ 防災倉庫マップを作る。</li> <li>・ 安心して釣りが楽しめるように、堤防、波止場に防災グッズを設置する（ロープや浮き輪など）。</li> <li>・ <b>これ以上、山がなくならないよう災害の少ない土地を守るための活動をする。</b></li> </ul>	
⑦生活困窮者への支援					

2 くらしやすく、移住しやすい環境づくり

創生会議委員意見は丸ゴシック体で表記

基本的方向性	課題	市民委員会・創生会議委員の意見			具体的な施策
		個人の取組	地域・民間の取組	行政の取組	
①交通利便性を高める	公共交通網が不便。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高速バスターミナル設置の各区長署名を集め市長に提出する。</li> <li>・高速バスターミナル設置及びJRの複線化に関し協力する。</li> <li>・電車を利用する。</li> <li>・通勤可能であれば、富津に住んだまま通勤する。</li> <li>・車なしの環境は考えられない。</li> <li>・富津市(実家)から市外の勤務先や学校へ通う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高速バスターミナル設置及びJRの複線化に関し協力する。</li> <li>・JRの複線化については市民より嘆願書を付けて要求する。</li> <li>・通勤、通学を家から通えるようにする。</li> <li>・都心の会社や学校に通いやすくなる。(1から)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・君津以南の交通の便をよくする取り組みをする。</li> <li>・高速バスターミナルは具体的な実行計画を提示する。</li> <li>・職員がワゴン車で巡回する。</li> <li>・交通の利便性(JRの本数)の向上のため通勤、通学の現状調査をする。</li> <li>・魅力ある市として発信する。</li> <li>・高速バスは停留所に買い物ができる場所があるといっているので、富津イオンにバスターミナルを設置する。</li> <li>・高速ターミナルの設置及び青堀駅までの複線化を最優先に推進する。</li> <li>・高速バスタップについては4車線化工事に合わせてという事だったがその周りに道の駅を作るなどの環境を整える方が必要。</li> </ul>	
	高齢者の買い物が不便。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者等の買い物を近所で助け合う。</li> <li>・高齢者に新しい情報を伝える。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティバスを運行する(現在の市のバスが通っていない場所)。</li> <li>・バスをスーパーに停車できるようにする。</li> </ul>	
②地元商店街の活性化	近くに買い物をする場所が少ない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・富津市内の商店の利用を心がける。</li> <li>・多少お金がかかっても地域の小売店を利用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週に目玉商品などをチラシなどで紹介する。</li> <li>・大手スーパーに依頼して、週に一回くらい佐買の方を廻ってもらうよう依頼する。</li> <li>・商店の利用を高める。</li> <li>・商店マップをつくる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どこにスーパーがあるかなどを閲覧板でお知らせする。</li> <li>・大手スーパーに地方配達してもらえるようにするなどアピールする。</li> <li>・ファミレスや大型店を誘致する。</li> <li>・市内に中心部を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空き家化している商店のイベントや短期の活用</li> <li>・商店街をリノベーションする。</li> <li>・地域が地元の商店を支える仕組みづくり</li> </ul>
	富津市地域振興券が活用されていない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・購入して使用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用する人、利用できる店舗のモチベーションをあげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続的に魅力発信する。</li> </ul>	
③道路整備	暮らしやすい環境づくりの工夫の余地がある。			<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路などを継続して清掃する。</li> <li>・道路の狭い地域など区画整理する。</li> <li>・交通網やライプラインを強化する。</li> </ul>	
④住環境の整備	暮らしやすい環境づくりの工夫の余地がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不都合な真実から目をそらさないようにする。</li> <li>・町内の家の前は個人で清掃する。</li> <li>・不使でも自然と暮らせる喜びを感じる。</li> <li>・息子達が家庭を持つ時、富津市を選べるようにする。子どもの生活に協力し同居に努める。</li> <li>・別荘に時々来る人にも積極的に声をかけて住みやすさをアピールする。</li> <li>・自然があつて便利な所、本当は両方兼ね備えている方が良いが、考え方を考えてその場所の良い所に住むことを考える。</li> <li>・東京都に勤めている息子を呼び寄せる。</li> <li>・地元に住んでいる人間として、他県から来た人達に良い場所を教える。</li> <li>・身近な人に富津の良さを伝える(親族、友人など)。</li> <li>・富津市の自然環境の良さや移住するためのコストの安さなどの良い点を日頃から話す。アピールできる場所があれば参加して協力する。</li> <li>・他市の知り合いに移住を促す。</li> <li>・地域に新しく転入してきた人や市外の人に自然や生活のしやすさをアピールする。</li> <li>・市外で富津市の良さをPRする。</li> <li>・別荘地の人と交流することで、住んでもらいやすい環境にする。</li> <li>・別荘地の人にも、趣味などでつながりを広げる。</li> <li>・野生動物が近くにいても魅力の一つとして暮らす。</li> <li>・海、山、田んぼの魅力を活かす。</li> <li>・CCRCの調査・研究をする。(1から)</li> <li>・転入希望の方に良いアピールが出来るようにする。</li> <li>・地域及び富津市のイベントなど移住して来た人に優しく教える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世代間で意見交換し、若い人の意見を取り入れるようにする。</li> <li>・昔の生活に戻るとして楽しむ。</li> <li>・60代、70代前半の人を活用して少し賃金を支払って活躍してもらう。</li> <li>・企業の独身者に富津市をよく知り好きになってもらい、永住したくなる気持ちにする。</li> <li>・住みやすい地域作り、近隣との交流をする。</li> <li>・地域で住んでもらう場所を決めて定住者を迎え入れる。</li> <li>・市外の人に住み良さをPRする。</li> <li>・区域を分けるなどをして、住民の希望がかなう方法を考える。</li> <li>・富津市型CCRCの検討をする。(1から)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・富津市の将来ビジョンを市民にきちんと記し理解してもらう。</li> <li>・四季を通しての魅力を発信する。</li> <li>・人口が多い所(大堀地区etc)は下水道整備を行い、それ以外は浄化槽を設置する。</li> <li>・道路などを継続して清掃する。</li> <li>・道路の狭い地域など区画整理する。</li> <li>・通学時に子ども達に危険がないよう、イノシシの捕獲をする。</li> <li>・車がなくても便利に生活できるようにする。</li> <li>・人が少なくても幸せで安全に暮らせるようにする。</li> <li>・山林、農地の規制を考え直す。</li> <li>・駅周辺は借地に自宅を建てている事例が多く、なかなか購入できない。次の世代の土地(地元)定着を阻害している要因であるので、行政が街づくりとして力を入れていく。</li> <li>・学校の児童数が減った場合、合併することも一つだが、交通の便などの条件を行政が助けていく。</li> <li>・転出、転入の理由などをできる限り調査する。</li> <li>・調整区域の見直しをする。</li> <li>・全国に富津市の土地や人、自然を知ってもらえるようPRする。</li> <li>・市外の方とコミュニケーションをとり、定住を促していく。</li> <li>・自然の豊かさを生かして環境に優しい町作り、自転車に優しい町作りをする。</li> <li>・都市化する必要はない。</li> <li>・外に向けて定住や豊かな富津の自然をアピールする。</li> <li>・野生動物との出会いが楽しめる里山暮らしといった売り方をする。</li> <li>・地区別・ビジョンを考えていく。</li> <li>・日本版CCRC(高齢者居住コミュニティ)を検討する。</li> <li>・転入者を補助する。</li> <li>・新しく転入して来た人や、アパートに住人にも清掃除やゴミ拾いに一緒に参加してもらうよう働きかける。</li> <li>・富津市の将来ビジョンを定量的にきちんと示し理解してもらう。</li> <li>・市営住宅のメンテナンスを行い、安く貸し出す。</li> <li>・CCRC計画を大学・専門学校のキャンパスに誘致する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「富津」らしいスタイルの分譲住宅を形成</li> </ul>
	公園が利用されていない。(第3に再掲)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広すぎるので保護者が付いていく。</li> <li>・公園があることに目を向ける。</li> <li>・トイレをきれいにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植木を伐採する(下刈りと草刈りをする)。</li> <li>・地域で清掃をする。</li> <li>・公園利用を地区で推進する。</li> <li>・地域に呼び掛けて目を向けてもらう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・富津公園内にキャンプ場があることを伝える。</li> <li>・明るくて綺麗なトイレ(館山市のような)にする。</li> <li>・利用制限を緩やかにする。</li> <li>・シルバー人材センターなどを活用して壊れた施設を直す。</li> </ul>	

基本的方向性	課題	市民委員会・創生会議委員の意見			具体的な施策
		個人の取組	地域・民間の取組	行政の取組	
	若い人達が住みやすい環境になっていない。 (第3に再掲)	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域への愛着を持つ。</li> <li>富津市の良い所を機会があることに話す。</li> <li>若い人が住みやすい地域に協力する。</li> <li>仲間内同士で声をかける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>若い人達が住みよい街作りをする(住宅団地造成、住宅建設)。</li> <li>アンケートをもとに転出・転入理由を考える。</li> <li>県外転入者の転入理由をアピールポイントとして伝えていく。</li> <li>若者が喜ぶ土地にする。</li> <li>「ニュータウン」のように新しくきれいな分譲地を作り、子育て世代に家を建ててもらえるようにする。(1から)</li> <li>観光客に移住課題をさく。</li> <li>地域の環境を改善し若者が住んで楽しい生活環境にする。</li> <li>出産後の女性も働きやすい職場を作る(保育所付きの職場など)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>住宅ローン者には、その他の負担軽減策を考える。</li> <li>アンケート調査を行い、原因分析し対策を考える。</li> <li>古い町並み、廃屋を一掃し、分譲地を作りやすく整備する。(1から)</li> <li>スーパー、ファミレス、学校、保育園、小児科の充実、道路の整備、交通利便性などの環境づくりをサポートする。(1から)</li> <li>県内外の若い人(ファミリー層)へ転入促進する。(1から)</li> <li>交通の利便性を良くした上で整備し、自宅から通勤が楽しくなるようにする。</li> <li>日常の交通利便性を良くする(大型店舗廻りのバスは店舗に出させるなど)。</li> </ul>	
	避難場所、備蓄倉庫の場所がわからないなど地域の防災体制が不十分。(再掲)	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分で下見をして避難できそうな場所を考える。</li> <li>防災倉庫の場所をチェックしておく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域で避難場所を確認する。</li> <li>必ずしも市で決められた場所が安全とは限らない事を認識する。</li> <li>避難訓練の時に防災倉庫の情報を共有する。</li> <li>倉庫の中身を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災情報を提供する。</li> <li>防災倉庫マップを作る。</li> <li>安心して釣りが楽しめるように、堤防、波止場に防災グッズを設置する(ロープや浮き輪など)。</li> </ul>	
⑤空き家利用の促進	空き地、空き家を現況把握や有効活用が不十分。	<ul style="list-style-type: none"> <li>空き家の把握と情報の行政への伝達。</li> <li>他の自治体からの転入の手段として考える。</li> <li>使用していない土地を手放す。</li> <li>空き家・空き地があれば協力を促す。</li> <li>民泊できる空き家の情報提供をする。</li> <li>家に住まなくなった場合、市に届けることにより見回りなどの管理や貸家の仲介をする(不動産にも登録する)。</li> <li>両親が亡って空き家になり、その後市外にいた子どもが住むようになった場合優しく受け入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人の居住実態を把握する。</li> <li>他から来た人を気持ち良く受け入れる。</li> <li>空き家の状態を調査・把握する。</li> <li>空き家マップを作る。</li> <li>安価な土地利用の促進をする。</li> <li>民泊の周知などをして協力する。</li> <li>空き家などもっと貸し出せるようにする。</li> <li>富津市に住むには家を建てなくてはならないので空き家の有効活用をする(近隣市と比べると賃貸住宅の供給量が少ない)。</li> <li>田舎暮らし体験ツアーを実施する。</li> <li>空き家の確認や報告を出来る範囲で行う(個人情報取り扱いには注意)。</li> <li>空き地、空き家の実態を把握し区長が行政に連絡する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>空き家を使った観光資源の開発に力を入れる。</li> <li>空き地を利用した企業誘致をする。</li> <li>空き家、空き地の状況把握をし、持ち主と交渉をしてホームページに掲載していく。</li> <li>空き家や別荘を活用しての二居住政策を進める。</li> <li>民泊やホームステイが事業としてできるか法律などを確認し情報発信する。</li> <li>危険な空き家は撤去する。</li> <li>芸術家に対する空き家の提供や税の優遇をする。</li> <li>予算をかけず、空き家を活用して若い人を呼び込む。</li> <li>一旦市を出て戻ってくる場合、税の補助やリフォームの補助をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地元の間事業者との連携強化</li> <li>インターネットへの空き家情報掲載</li> <li>空き家改修に対する助成制度</li> <li>定住者と別荘利用者の住み分け</li> <li>空き家のマッピング、データベース化</li> <li>先に不足している施設を把握し、空き家で実施</li> </ul>
⑥環境美化 生活環境の保全	ごみの出し方、集積場所の管理に改善の余地がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゴミ出しを日々チェックする。</li> <li>分別を今以上する。</li> <li>各地域やグループのルールを必ず守る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域住民でお金を出し合って設置したものは、それ以外の人には利用できないようにする。</li> <li>地域の方は、お互いに話せるようにする(誤ったごみであれば注意する)。</li> <li>廃棄物ごとに細かく分けて出す。</li> <li>地域でも分別と減量をアピールする。</li> <li>町境の雑草は地域で清掃する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>分別とは別にごみ出しのルールを決める。</li> <li>海岸に落ちているごみは清掃するのだから曜日など関係なく集めて処分する。</li> <li>ゴミステーションの管理を協力する。</li> <li>回収場所を定期的に点検する。</li> <li>回収できない物品を徹底的に周知する。</li> <li>分別、減量のアピールをする。</li> <li>市役所、公民館に古紙、ペットボトルキャップ回収箱を設置する(市役所に足を運んでもらう)。</li> <li>市内で使えるポイントを作り、そのポイントは市内で使える使用期限付きの商品券にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>空き家の環境整備(空き家内の整理の手伝いなど)</li> <li>朽ちた看板の撤去、除草、錆びたゴミ箱の交換</li> <li>ベンチや街灯の整備</li> </ul>

## 3 子どもの笑顔があふれるまちへ

創生会議委員意見は丸ゴシック体で表記

基本的方向性	課題	市民委員会・創生会議委員の意見			具体的な施策
		個人の取組	地域・民間の取組	行政	
①出会いの場を創出し、結婚の希望をかなえる 子育て支援制度の充実 子育てしやすい住環境整備 女性が暮らしたいまちづくりの推進	出生率が低下している。	・若い世代(子ども、若年世代)とつながりを保つ。 ・年を取ると子どもにお世話になる事を自覚し子どもを大事にする。	・子育てしやすいコミュニティ作る。 ・若い男女の出会いの場を作る。 ・子育てと仕事の両立できるよう周囲がサポートする(地域の高齢者の力を活用)。 ・地域で子育て支援チームを作って応援する(あらゆる人材を使う)。 ・地域で子どもの見守りを行い、安心して子育てできる雰囲気を作る。 ・出産後の女性も働きやすい職場を作る(保育所付きの職場など)。	・女性の働く場所を地域の中に用意する。 ・保育の充実で働く女性を支える。 ・県内外の若い人(ファミリー層)へ転入促進する。 ・アンケート結果を分析する。 ・女性の意見を聞く機会を増やして活かしていく(若いファミリー層へも意見を聞く)。1 ・保育園・幼稚園の充実など子育てしやすい環境にする。2 ・若者優先の視点で、若い女性(20才～39才)の意見を聞く場を設ける。 2 ・税、雇用の創出、子育てしやすい環境などを考える。2 ・婚活の仲介をする(結婚相談員を既婚の若い世代にする)。 ・生活環境を整備し魅力のある富津市にする。 ・出産後の女性も働きやすい職場を作るといった条件に合う企業誘致などを行う。 ・婚活のテレビ番組の誘致なども考える。	
	他市と比べて未婚率が高い。	・家族を増やすことに傾注する。 ・長男・長女に跡取りを強要しない。 ・出会いの場に参加する。 ・若年者の結婚推進策を考えるようにする。2 ・できるだけ早く結婚する。1 ・同窓会などで、「息子や娘が独身」という人が多いので相手を紹介する。	・若い男女の仲を取り持つ組織を作る。 ・出会いの場を作る(紹介する)。 ・結婚出産に踏み切っただけの収入のある職を確保する。 ・女性が出ていかない工夫をする。 ・地区単位で婚活委員会を設け活動をする。	・結婚相談所の活性化を図る。 ・子育て支援を充実させる。 ・若い男女の出会いの場を近隣の自治体と連携して進める(市が婚活を行う)。 ・市が婚活を開く(出会いの場を作る)。2 ・若者優先の視点で、若い女性(20才～39才)の意見を聞く場を設ける。2(再掲) ・税、雇用の創出、子育てしやすい環境などを考える。2(再掲)	・手軽に婚活できる場、出会う機会を作る。 ・「富津」で育った人のイメージを押し出す。 ・富津在住の人のライフスタイルを紹介 ・世代別にマッチングできる環境
②子育て支援制度の充実	子どもや子育てについてワンストップで相談できる窓口がない。	・窓口の存在など情報収集する。 ・市役所に子育ての総合受付窓口がある事などを伝える。 ・積極的に問い合わせや相談する。	・助けてあげられることは、皆で協力するようにする。 ・高齢者から、若い人達に声を掛けてもらうようにする。 ・子育てしている人の仲間づくりをする。	・遊び場、相談場所、保育ができる総合的な場所を作る。 ・子どもに関して何でも相談できる窓口(場所)を作る。 ・分割されている業務の一本化を目指す。 ・各課と連携して、一緒に考えてくれる窓口にする。 ・地域の願いをサポートする(市民幸せ度を上げるサポート)。 ・学校関係や家庭相談が気軽にできる窓口にする(気軽に聞ける場所にする)。 ・仕事を続けながら子どもを産み、育てていくのに必要な環境を最優先に考えていく。	
	子どもや子育て世帯とのコミュニケーションが不足している。	・周りの子ども達に声を掛けるようにする。 ・親がわがままや常識とかげはなれたことを言わないようにする(行動をわきまえる)。 ・コミュニケーションを大事にする。 ・子育て中の親子に声をかけてみる。 ・隣近所と関わり合いをもつ。	・若い人がどの程度いるか知ってもらい高齢者が声をかけられる。 ・地域みんなで子どもに声を掛けたり交流を行う(仲間意識を向上させる)。 ・親世代を教育する。 ・ダメなものは注意できる空気を作る。 ・子育て交流できる場を作るなどの支援をする。2 ・小規模でも子どもから老人まで一緒に運動会をできるようにする(昔はやっていた)。 ・どこに子どもが住んでいるか知る。 ・公園の清掃をする。 ・地域としてコミュニティを作り、新住民が入りやすい環境を作る。 ・地域が中心となって「地元の子ども会、PTA、自治会、社会福祉協議会、行政など個人と各団体、組織のつなぎ役を担う。	・母親達とコミュニケーションをとり、何が必要か聞く。 ・学校と地域の人が一緒に参加できる行事などの計画をする。 ・子育てに関する告知や聞き取りを強化する。 ・周辺の市町村と連携する。 ・全ての人が目につくように情報発信をする。 ・不安を与えない情報発信の仕方を考える。 ・ファミリーサポートの開設やそのPRをする。 ・困ったときの相談窓口を作る(ワンストップ化の中で)。 ・公民館などコミュニティ関連施設を開放する。 ・地域のコミュニティを把握する。 ・仕事を続けながら子どもを産み、育てていくのに必要な環境を最優先に考えていく。 ・市役所の空きスペースにキッズスペースの設置や市民グループの貸出しなど市民に開放する。	・気軽に子育てで相談ができる場(公民館など) ・身近な支援体制
	子育て世帯への情報提供が不足している。	・市が配っているサークルの冊子をきちんと読む。 ・仲間を求め触れ合うようにする。 ・意識を持って、子どもが参加できる場所を探す。 ・チラシ・広報などの配布物や子育てしている家族とのコミュニケーションを図るなどアンテナをはりめぐらす。	・声掛けなどをして情報を共有する。 ・地域が行政情報を伝えるパイプ役になったり、自治会行事・子ども会などへの参加を促す。	・君津にある、子どものコミュニケーションセンターのような場所を作る。 ・子育て関係のサークルや活動などを紹介する。 ・全ての人の目に留まるような情報発信を行う。 ・若者優先の視点で、若い女性(20才～39才)の意見を聞く場を設ける。2(再掲) ・定期的に「子育てサロン」や学校では「家庭学級」を開催する。 ・市役所の空きスペースにキッズスペースを作る。 ・情報を身近に感じてもらうなど工夫をする(保育、幼稚園、PTA会合などで発信)。 ・参加して口頭でお知らせするなどしてその世代の声を聴きだし、環境づくりをサポート。	・女性の楽しみを満たせる場所、癒しの場所



基本的方向性	課題	市民委員会・創生会議委員の意見			具体的な施策
		個人の取組	地域・民間の取組	行政	
	市民委員会の成果、他の会議(子ども子育て会議)との役割分担が不透明。	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民として出来る努力をし、富津市をよくするアイデアを考える。</li> <li>子ども子育て会議の考え方を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の区長や市議との話し合いの場を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>富津市民委員会で取り上げた内容の一つでも実現させる。全てできないという事はないようにする(アライバイ作りにならないように)。</li> <li>市の業務の説明を短くする。</li> <li>事業仕分けの結果もしっかり次に繋げていく。</li> <li>2つの会議の資料を両方に公開してほしい(情報の共有をする)。</li> <li>市議会と市民とのパイプ役をする。</li> <li>各居住地区によっての問題比重の違いを公平に討議するため農村や漁村、新宅地区など各地域(中学校区別など)で改善を提案し、行政と政策の方向を考えながら各地域をつなげる役目を担う。</li> </ul>	
	学童保育のない地域がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>近所の子ども達を気に掛ける。</li> <li>日頃から声掛けをして交流を持つ。</li> <li>ボランティアとして協力する。</li> <li>学童という名目だけではなく、子ども達一人一人と関わるようにする。</li> <li>町内のコミュニティ、集会所を利用できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存の老人福祉施設で子どもを見ることができるようにする。</li> <li>空き家の活用や定年をした人達と連携する。</li> <li>市議や区長など地域の現状を知っている人達に協力してもらう。</li> <li>空いている住宅の情報提供をする。</li> <li>隣近所の人々を巻き込み、遊び感覚で子どもと付き合うようにする。</li> <li>企業での子育て支援(育児休暇制度)の体制</li> <li>預かる人を前職で保育士や先生をやっていた人や近所のおばさんやおじさんを採用しアルバイト賃を出す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学童保育など可能な限り多く作る。</li> <li>学童施設の設置基準などの条例改正などを検討する。</li> <li>使用できる行政施設を提供する。</li> <li>コミュニティスクールを作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の人材を活用する。</li> </ul>
③子育てしやすい住環境整備	(幼児も含めて)夜間医療がない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人で考えるのではなく、みんなに聞いてから病院へ行くようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>周りの人がいつでも相談にのってくれる様にコミュニケーションをとっておく。</li> <li>退職医師に相談にのってもらう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>どのような病院があるか周知する。</li> </ul>	
	公園が利用されていない。(再掲)	<ul style="list-style-type: none"> <li>広すぎるので保護者が付いていく。</li> <li>公園があることに目を向ける。</li> <li>トイレをきれいに使う。</li> <li>公園をきれいに使用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>植木を伐採する(下刈りと草刈りをする)。</li> <li>地域で清掃をする。</li> <li>公園利用を地区で推進する。</li> <li>地域に呼び掛けて目を向けてもらう。1</li> <li>植栽を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>富津公園内にキャンプ場があることを伝える。</li> <li>明るくて綺麗なトイレ(館山市のような)にする。</li> <li>利用制限を緩やかにする。</li> <li>シルバー人材センターなどを活用して、壊れた公園などにあるドアなど、修繕が必要な箇所を修理する。</li> </ul>	
	子ども達の安全の見守りへの協力がさらに必要。(再掲)	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもを見守る。</li> <li>見守りなどの場があれば協力する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもが遊びやすいように工夫する。</li> <li>地域で見守りをする。</li> <li>子どもの見守りに高齢者の活用をする。</li> <li>地域で見守りを行い、安心して子育てができるようにする。1)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>通学時に子ども達に危険がないよう、イノシシの捕獲をする。</li> <li>子ども達を見守れる仕組みを作る。</li> </ul>	
	若い人達が住みやすい環境になっていない。(再掲)	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域への愛着を持つ。</li> <li>富津市の良い所を機会があるごとに話す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>若い人達が住みよい街作りをする(住宅団地造成、住宅建設)。</li> <li>地区の代表者を中心にして新しく入ってきた人達を歓迎する。</li> <li>出産後の女性も働きやすい職場を作る(保育所付きの職場など)。</li> <li>何か家を建てたりした後の優遇を行う。</li> <li>隣の市に行った時に、富津市をアピールする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育などの負担を減らす。</li> <li>住宅ローン者には、その他の負担軽減策を考える。</li> <li>市外へ出た方に、富津市に帰ってきたくなる施策を実施する(子育て支援、長時間保育など)。</li> <li>1 小学校、中学校の合併、スクールバスを走らせる。</li> <li>2 子育てについての問題点を把握する。</li> <li>1 子育て支援を充実させる。</li> <li>2 出産後の女性も働きやすい職場を作るといった条件に合う企業誘致などを行う。</li> <li>日常の交通利便性を良くする(大型店舗廻りのバスは店舗に出させるなど)。</li> <li>富津市の良いところを全国的にアピールする。</li> <li>情報を身近に感じてもらえる工夫を行い保育園、幼稚園、PTAなどで発信する。</li> <li>若いファミリーが何を求めているか広く聞いてみる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存の施設や、素材・人材をリストアップして、イベントや体験につなげる。</li> </ul>
	病院が少なく場所が分かりにくい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分からインターネットなどで場所を調べる。</li> <li>困っている方のバスの乗り降りの手伝いをする。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>市内にある病院の救急当番を増やすようお願いする。</li> <li>病院マップを作る。</li> <li>バスを巡回させて各病院(科)の時間別診療を受けられるようにする。</li> <li>バスの利用を依頼する。</li> <li>病院を誘致する。</li> <li>安心して出産できる病院や施設を準備する。2</li> </ul>	

基本的方向性	課題	市民委員会・創生会議委員の意見			具体的な施策
		個人の取組	地域・民間の取組	行政	
⑤のびのび学ぶ教育環境の整備	学校給食の食材や調理場所について検討の余地がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアできることはしたい。</li> <li>・子どもが何を食べているか、きちんと見ていく。</li> <li>・個人で獲れた野菜や魚を寄付する。</li> <li>・食材などを調べることに協力する。</li> <li>・告知に協力をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元野菜、お米を使う。</li> <li>・無農薬野菜を作っている農家から野菜を購入する。</li> <li>・食材の産地の公表やホームページを立ち上げることに協力する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食材の産地や含まれる食品添加物の種類などをHPなどで公開する(ファミリー層を呼びこみたいならいいアピールになる)。</li> <li>・栄養士の質の向上を計る。</li> <li>・食生活改善推進委員の役割を見直す。</li> <li>・地場野菜などを使うと値段も安くすむと思うので検討する。</li> <li>・市の規則で「学校給食は無添加物食品・無添加物野菜を使う事と定めバックアップする。</li> <li>・学校給食の食品添加物の告知をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の強みや特性を生かした独自のプログラム ⇒例)豊かな自然を生かした教育 体験型教育「客観的な評価・体制作り」</li> </ul>
	地域の強みや特性を生かした教育		<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの教育環境を良くする(特に高等教育)。</li> <li>・体験型教育(まちの先生など)</li> <li>・近隣の人達が子どもの教育を分担する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しいスタイルの教育(フリースクール、森の保育園など)を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の強みや特性を生かした独自のプログラム ⇒例)豊かな自然を生かした教育 体験型教育「客観的な評価・体制作り」</li> </ul>

4 市の産業・仕事を創る

創生会議委員意見は丸ゴシック体で表記

基本的方向性	課題	市民委員会・創生会議委員の意見			具体的な施策
		個人の取組	地域・民間の取組	行政の取組	
①雇用の創出	雇用の受け皿が不足している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地場製品の加工業務などに地元の人を雇用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地場産品を活用していく。</li> <li>・結婚して出て行かないよう、配偶者の勤め先を確保して家族で来てもらいやすくする。(1から)</li> <li>・地域に出生年齢の方々の雇用を確保できる職場を創設する。(1から)</li> <li>・就労の場を作る。(1から)</li> <li>・働く場所を確保する。(2から)</li> <li>・子育てと仕事の両立できるよう周囲がサポートする(地域の高齢者の力を活用)。(3から)</li> <li>・市内合同就職セミナーの実施</li> <li>・地場産品を加工して付加価値をUPし販売する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病氣や介護など、Uターンした人の雇用の受け皿を考える。</li> <li>・企業誘致をする。</li> <li>・仕事環境の紹介をする。</li> <li>・都市部に比べて、地代が格安な富津市を売り込み自宅で仕事ができるIT技術者やコンピューター関係で仕事をしている方々をターゲットにPRする。</li> <li>・求人と求職のニーズを調査する。</li> <li>・高速ICを中心に地区を決め、新たな企業誘致ができる場所を作る。</li> <li>・女性の働く場所を地域の中に用意する。(3から)</li> <li>・調整区域、山林・農地の規制の見直し</li> <li>・工業地域の土地利用の見直し</li> <li>・都市計画区域外の行政計画の策定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調整区域の見直し</li> </ul>
	企業誘致の奨励金の在り方に問題がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業に雇用される個人のレベル向上が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業見学会などを地域で計画する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・奨励金以外のお金の使い方を考える。</li> <li>・企業に地元の人を雇用をお願いする。</li> <li>・飲食や雑貨販売の店を始めたいという人に起業のチャンスを与える。(2から)</li> <li>・起業を一から学べる場を用意する。(2から)</li> <li>・企業誘致奨励金の使い方を考えると共に、市内への移住を増す努力をする。(2から)</li> <li>・出産後の女性も働きやすい職場を作る(保育所付きの職場など)。3から</li> <li>・地元根付く仕事作りを企業・工業誘致とは違う観点で作り出す。</li> </ul>	
②産業競争力の強化 地場産業の起業促進 ②地場産業の振興	担い手の高齢化、後継者不足などにより地場産業である農業、漁業が衰退している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第一次産業従事者とのつながりを作る。</li> <li>・地場産業に関心のある人への呼びかけを行う。</li> <li>・実家・親戚の農業の経験を伝え残す(技術を継いでいく意識を持つ。)</li> <li>・どんな特産物があるか、どんなものが生産されているかを知る。</li> <li>・農業・漁業を見学したり、体験したりする。</li> <li>・企業などの契約農家になる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地場産品を買い、地産地消する。</li> <li>・会社設立に協力する。</li> <li>・これから農業に携わる人と、長年農業をしてきた人が話し合う場を作る。</li> <li>・農業体験の実施</li> <li>・地元の学校だけではなく、人の集まる場所(イオンなど)やネットで大々的に宣伝し興味のある人を受け入れる。</li> <li>・農業漁業の仕事に興味のある人の為に相談窓口を作る。</li> <li>・人手不足を援助する仕組み作る。</li> <li>・育てる漁業の展開</li> <li>・6次産業化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地場産業をより支援する。</li> <li>・生産だけでなく、地域の環境保全の観点で支援を行う。</li> <li>・後継者がいなくて廃業を考えている人と新たに始めたい人を繋ぐ役割を担う。</li> <li>・各種団体と富津市が連携をする。</li> <li>・高齢者の経験を農業団体などの活動に活かせる場を作る。</li> <li>・地場産業が発展するようなバックアップをする。(2から)</li> <li>・特産である海苔の学術的な裏付けの科学的調査をする。</li> <li>・若い人の興味を引くような活動をする。</li> <li>・地元根付く仕事を作り、企業、工業誘致とは違う観点で作り出す方法を考える。</li> <li>・農業に興味のある若い人が増えているので富津市の環境を積極的にPRする(気候もいいし、水もいいし、素晴らしい土地である)。</li> <li>・地場産業や地場技術の保護と活性支援をする。</li> <li>・農業や漁業は意外と儲かるという事をPRする。</li> <li>・農協や市が個人と企業などの間に入り、契約農家として安定的に生産できる土台を作る。</li> <li>・ふるさと納税の商品に〇〇さんの野菜といったフレーズをつけ、富津産の野菜をアピールする。</li> <li>・6次産業化の支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(地元根を張るという観点で)農業をしよう</li> <li>・就農希望者への支援策として特区指定</li> <li>・道の駅の設置(共同出店など)</li> <li>・遊休地の活用</li> <li>・海苔のオーナーズ制度</li> </ul>
	農地が有効活用されていない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土地の活用の依頼があれば協力する。</li> <li>・農繁期はバイトで手伝いに行く。</li> <li>・可能であれば自分自身で自給生活を実践する。</li> <li>・企業などの契約農家になる。</li> <li>・ふるさと納税の商品として出荷する。</li> <li>・市や学校に土地を貸し出す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・休耕田の貸し出しに協力する。</li> <li>・農繁期はバイトで手伝う。</li> <li>・休遊地を意思のある人に委ね事業化させる。</li> <li>・会社で働きながら農業のできる環境にする。</li> <li>・休耕田を地域で管理する(高齢者の知識の活用)。</li> <li>・農地を都会の人に開放して農業従事者の推進策として考える。</li> <li>・「半農半X」プロジェクト設立する(農、海産それぞれの可能性の研究、検証)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高速ICを中心に地区を決め、新たな企業誘致ができる場所を作る。</li> <li>・JAと連携して民間参入を推進する。</li> <li>・地権者とコミュニケーションをとり、農地の規制を見直しする。</li> <li>・農業支援策(事業化の道筋)を講じる。</li> <li>・休耕田、田畑の情報提供をする。</li> <li>・自給生活ができる場所として特区の取得をする。</li> <li>・農地有効活用の担当職員を置いて富津市を選んでもらえるようにする。</li> <li>・「半農半X」のPRをする。</li> <li>・大学と連携する。</li> <li>・一部地域を完全無農業にするなど、ローカルルール農業地区を展開する。</li> </ul>	

基本的方向性	課題	市民委員会・創生会議委員の意見			具体的な施策
		個人の取組	地域・民間の取組	行政の取組	
	各種経済団体(富津市商工会、富津市観光協会など)の活動が活発でない。(再掲)	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種団体が行事を実施する時は参加し協力する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種団体が行事を実施する時は参加し協力する。</li> <li>情報収集や発信、企画力の強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>富津市の発展の為に各種団体に協力する。</li> <li>富津観光協会へは活動方針などを指導する。</li> <li>商工祭、市の産業祭など他市に宣伝すべき。</li> <li>民間企業と富津市が連携しながら社員を就労又は就労支援を一緒になって行う。</li> <li>民間企業と富津市が連携しながら新たな仕事や産業を生み出していく。</li> <li>熊本県天草市では市の職員に全日空(ANA)から戦略マネージャーとして派遣職員になり協働している。</li> </ul>	
	農産物の特売所がない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティアで協力できることをする。</li> <li>市内での消費を意識する。</li> <li>個人として、出店できる場所に参加していく。</li> <li>特売所に出品する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>開設地域が決まれば歓迎し、清掃などみんなで協力する。</li> <li>市内で消費・循環する仕組み作り</li> <li>地域として場所の提供をする(特売所に出品する)。</li> <li>地区でできないか区長達に提案をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>道の駅の建設を考える。</li> <li>富津市内に富津の農業などで採れる特産物及び養殖海苔に付加価値を付けて販売する特産物販売店を行政とJAが主体で開業を推進しインターネット及びパンフレットなどで広報する。</li> <li>富津ブランドを確立する。</li> <li>観光アピールする(東京から買いに来てもらう)。</li> </ul> <p>富津市には特売所が一つもないのでバスストップができるのであればそこに一緒に作る。</p>	
③観光振興	観光地としての整備が不十分。	<ul style="list-style-type: none"> <li>海堡を観光地とするため、国から払い下げのための署名運動及び寄付金集めなど協力する。</li> <li>料理人と古民家を結び付ける。</li> <li>広報のポスティングなどできる事は、ボランティアで協力する。</li> <li>ウインドサーフィンの取扱店情報を共有する。</li> <li>富津市の観光資源について、インターネットなどで発信をする(SNS)。</li> <li>釣り、サーフィン、ジャンププールなど知人に勧める。</li> <li>県外の知人、友人に富津市の良さを宣伝する。</li> <li>観光に来た人が良かったと思えるようにきれいな街づくりを意識する(美化する)。</li> <li>海や山にゴミを捨てないようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>海堡を観光地とするため、国から払い下げのための署名運動及び寄付金集めなど協力する。</li> <li>観光地としての環境づくりや資金集め、清掃活動などに協力する。</li> <li>ハイキングやサイクリングの人のために、売店のような形で薬や軽食を安く提供する。</li> <li>空き家レストラン、農家民宿、漁師料理が食べられる店など、富津市民が一般家庭で食べている新鮮な食材を使った店を作る(都会の人に喜ばれる)。</li> <li>マラソン、駅伝チームの誘致や受け入れをする。</li> <li>自治会で美化運動をする。</li> <li>地域で観光協会と話し合いができるようにし活性させる。</li> <li>農産物、海産物などの物産店など作る。</li> <li>各種イベントの企画、仕掛け</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>海堡を観光地とできるように取り組んでいく。</li> <li>飲食店や民宿などが少ないので、飲食店や民宿の相談に乗り行政が情報発信していく。</li> <li>市の名物やそれらを食べる場所も少ないので地元の農産物、海産物を使った料理のレシピなどを募集する。</li> <li>外国人観光客への案内を強化する。</li> <li>観光地として企業誘致をする。</li> <li>市内の観光地を自然と広さを活かした観光施設として整備する(清潔なトイレと自然でPR)。</li> <li>地場産品をPRする。</li> <li>サイクリング用の自転車道を整備する。</li> <li>富津岬周辺に東京湾で捕れる新鮮な魚料理専用で「保田の番屋」のような大店舗を行政と漁業組合が主体で開業しインターネット及びパンフレットなどで広報する。</li> <li>海水浴場など料金徴収することで磯遊びや磯での食事を検討する。</li> <li>ウインドサーフィンの記事を広報紙に掲載する。</li> <li>民泊やホームステイの制度作りを検討する。</li> <li>農協や漁協、マザー牧場で取れた食材と一緒に食べる場所を作る。</li> <li>市内各地の観光場所を面として機能させる。</li> <li>ジャンププールのトイレ、更衣室をきれいにする。</li> <li>富士山や日の出、日の入りプラス観音様と一緒に写真を撮れるスポットを造り、国内外の観光客を呼び込む。</li> <li>既設の行楽地を整備して家族が一日楽しく遊べるようにする。</li> <li>富津公園でのマラソンの練習を安全にやりやすいようにする。</li> <li>観光地として土産物店を増やす。</li> <li>観光モデルコースをつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャンペーン店舗が一室に会する場を設ける</li> <li>道の駅の設置(共同出店など)</li> <li>史跡などの周辺環境整備(トイレ、駐車場)</li> <li>海外の観光客誘致</li> <li>富津コンベンションの開催(ALL富津での取り組み)</li> <li>観光型農業や漁業の促進(特に体験型)</li> </ul>
	農産物の特売所がない。(再掲)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティアで協力できることをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>開設地域が決まれば歓迎し、清掃などみんなで協力する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>道の駅の建設を考える。</li> <li>富津市内に富津の農業などで採れる特産物及び養殖海苔に付加価値を付けて販売する特産物販売店を行政とJAが主体で開業を推進しインターネット及びパンフレットなどで広報する。</li> </ul>	